

会報 SHINSHIYOU



神私幼

平成27年6月1日

第192号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会
 発行人：会長 小澤 俊通
 編集人：神私幼総務部(広報室)
 発行：年4回(6月・9月・12月・3月)
 発行部数：1700部

<http://www.shinshiyou.com>〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F
TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

黒字→県連合会行事／赤字→全日私幼連／緑字→県等行事
(予定表は5月22日現在確定のものを掲載)

4 April

- 15(水) 第1回広報委員会
 16(木) 第1回正副会長部室次長会
 　　第1回協議会
 　　第1回運営委員会
 23(木) 第1回研修事業部・研究部 部会
 24(金) 第1回総務部会
 　　第1回経営管理部会
 　　全日私幼連 常任委員会
 30(木) 関東地区会・神奈川地区会 団体長会・監査会・理事会

5 May

- 1(金) 監事監査
 7(木) 全日私幼児教育研究機構 理事会
 8(金) 全日私幼連 理事会
 11(月) 神奈川県子ども・子育て支援推進協議会
 12(火) 第2回正副会長会
 　　第2回運営委員会
 　　第1回理事会
 15(金) 第1回統合保育基礎講座
 18(月) 第2回研修事業部・研究部 部会
 19(火) 102条園プロジェクト委員会
 20(水) 新規採用教員研修会
 　　全日私幼連 総会
 21(木) 若手後継者のための保育勉強会
 　　第2回経営管理部会
 22(金) 第2回広報委員会
 27(水) オープン講座(小田原協会)
 　　オープン講座(鎌倉協会)
 28(木) 第3回正副会長会
 　　平成27年度通常総会
 29(金) 全日私幼児教育研究機構 評議会

6 June

- 3(水) 新規採用教員研修会
 4(木) 若手後継者のための保育勉強会
 10(水) オープン講座(藤沢協会)
 11(木) 第4回正副会長会
 　　第3回運営委員会
 12(金) 第1回新制度対応特別委員会
 16(火) 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会委員会
 17(水) 新規採用教員研修会
 25(木) 第2回統合保育基礎講座
 26(金) 第3回経営管理部会
 　　教育課程研究協議会運営委員会
 30(火) 第3回研修事業部・研究部 部会

7 July

- 1(水) 第3回広報委員会
 3(金) 全日本私立幼稚園PTA連合会総会
 4(土) 就職相談会
 7(火) 園長等運営管理協議会
 13(月) 全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会
 21(火) 第5回正副会長会
 　　第4回運営委員会
 22(水) 中堅教諭対象講習会(横浜美術館)
 27・28(月・火) 幼稚園教育課程等神奈川県研究協議会
 　　免許状更新講習会 必修領域
 　　10年経験者研修会

8 August

- 4・5(火・水) 新規採用教員研修会
 　　第30回関東地区教員研修茨城大会
 6~8(木~土) 若手後継者のための保育勉強会
 7(金) 保育技術協議会
 18・19(火・水) 幼児教育実践会
 24(月) 幼稚園教育相談コーディネータ研修
 26(水) 第4回広報委員会
 28(金) 三浦半島地区教育研究大会
 　　幼稚園教育課程研修講座

9 September

- 2(水) オープン講座(相模協会)
 7(月) 第4回研修事業部・研究部 部会
 10(木) 第3回統合保育基礎講座
 14(月) 第2回協議会
 　　第6回正副会長会
 　　第5回運営委員会
 15(火) 父母連常任委員会
 17(木) 第4回経営管理部会
 30(水) 第5回広報委員会

10 October

- 1(木) 若手後継者のための保育勉強会
 8(木) 第7回正副会長部室次長会
 　　第6回運営委員会
 14(水) 第5回研修事業部・研究部 部会
 19(月) 第5回経営管理部会
 22(木) 第4回統合保育基礎講座
 24・25(土・日) 免許状更新講習会 選択領域(湘南地区)
 26・27(月・火) 全国設置者・園長研修会(岩手)
 28(水) 新規採用教員研修会
 30(金) 幼・保合同研修講座
 未定 父母連常任委員会

11 November

- 5・6(木・金) 関東地区代表者協議会(千葉)
 7(土) 免許状更新講習会 選択領域(湘南地区)
 10(火) 第6回研修事業部・研究部 部会
 12(木) 第8回正副会長会
 　　第7回運営委員会
 14(土) 既卒者向け就職セミナー
 18(水) 第6回広報委員会
 19(木) 父母連研修大会(パシフィコ横浜)
 　　第6回経営管理部会
 26(木) 幼・保・小連携研修講座
 30(月) 資質向上セミナー

12 December

- 3(木) 第7回研修事業部・研究部 部会
 8(火) 父母連常任委員会
 9(水) 第9回正副会長会
 　　第8回運営委員会
 10(木) 第7回経営管理部会

1 January

- 8(金) 第7回広報委員会
 13(木) 第10回正副会長部室次長会
 　　第9回運営委員会
 16(土) 湘南地区教育研究大会
 18(月) 第8回研修事業部・研究部 部会
 20(水) 公・私立幼稚園合同経験者研修講座
 　　川崎地区教育研究大会
 23(土) 横浜地区教育研究大会
 27(水) 県央地区教育研究大会
 30(土) 教育経営研修会

2 February

- 10(水) 第3回協議会
 　　第11回正副会長会
 　　第10回運営委員会
 15(月) 第9回研修事業部・研究部 部会
 16(火) 父母連常任委員会
 17(水) 第8回広報委員会
 　　新採研運営協議会
 25(木) 第8回経営管理部会
 　　若手後継者のための保育勉強会

3 March

- 4(金) 第10回研修事業部・研究部 部会
 10(木) 第12回正副会長会
 　　第11回運営委員会
 　　第2回理事会

INDEX

② ③

会長挨拶 今年度のスタートにあたり
公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 会長 小澤俊通

平成27年度 役員名簿

④ ⑤

副会長が考える県連合会のあり方

⑥ ⑦

今年度の活動方針 各部長・室長

⑧ ⑨

研修事業部・研究部活動報告

平成27年度研修事業部・研究部事業予定表

⑩ ⑪

シリーズ 12協会長に聞きました
横浜協会/横須賀協会/厚木協会/小田原協会

⑫

研修会報告/法律相談事業のご案内/教育相談事業のご案内/Pride of KANAGAWA/新規加盟園情報

今年度のスタートにあたり



公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会
会長 小澤俊通

県の行政当局と綿密に連携しながら、新制度へ移行した園の支援に努めて、しっかりと財源確保などを目指していくべきと考えております。

てきています。最終的には県の担当課からの説明などを注視して頂きたいと存じます。

加盟園各位の県連諸活動への

ご理解・ご協力に感謝申し上げます。

昨年五月に就任した役員は任期二年目を迎えました。

今年度も事業計画に基づき役員一丸となり

事業を進めて参りたいと存じます。

既に新学期が始まり、二ヶ月以上過ぎて各園とも

子ども達の元気な声で満ちあふれておられると存じます。

この一年も「子ども達の最善の利益」を目指し、

幼稚園教育に邁進して参りましょう。

新制度が始まる

この四月に「子ども・子育て支援新制度」がスタート致しました。県内の私立幼稚園においては、約十七%の園が新年度保育型認定こども園・幼稚園型認定こども園・施設給付型幼稚園として新制度に移行致しました。移行された幼稚園においてはどのような課題を抱えておられるでしょうか。移行した園の設置者からは、「利用者負担額が四月に入り提示され、口座振替の手続きが間に合わず仕方なく現金徴収に切り替えた」とか、「加

算が明確でなく四月は基本分しか給付されない」とか、「市町村の事務も混乱しており給付が五月になってしまった」とか、「保育者の経歴で以前勤務していた施設へ在職証明をお願いしたくとも廃園となり対応に苦慮している」など、様々な声をお聞き致します。

制度はスタートしても改善すべき問題は山積していると感じます。国の姿勢としては、新制度を動かしながら課題解決を図るという事なのでしょうが、現場の混乱にももつと目を向けて欲しいと願っております。いずれにしても県連として、全日私幼連を通じて制度改善を働きかけ、全員で協力して改善を図りたいと存じます。

また、県の担当課では「私学助成制度検討協議会」を設置して、今後の私学助成のあり方を議論しております。県連からは山本・武藤両副会長が参画し、標準的運営方式の私学助成について協議を続けております。教職員割の中に園長職を上乗せすることなど協議の内容が煮詰まっています。

制度のない市町村から他の自治体の私立幼稚園に通園しているケースがあります。その保護者にとってはこの補助金制度の恩恵を受けられないことになってしまいます。県連としては全ての市町村で実施して頂けるよう、地区協会と連携していただきたいと考えています。

地域に根ざした児童教育施設として

就園奨励費は新制度に移行した園にとっても、市町村の利用者負担額に反映されますので、重要な位置を占めています。県内市町村での完全実施に向けて努力してまいります。

年度も研修・研究活動を充実させるべく、研修事業部と研究部はご努力頂いております。全日私幼連においては「〇～二歳児」に関する保育研究を始めようとしています。既に三歳未満児を視野に入れての研修が必然のように語られています。県連としても、「〇～二歳児」の保育はどうあるべきか検討することが出来ればと考えております。未来を見据えた研修・研究活動が必ずや私立幼稚園の明日を切り開いてくれると信じております。

新制度の施行に伴い、新幼保連携型認定こども園の「保育要領」が制定されました。幼稚園教育要領の改定作業も始まつたと聞いています。私達は常に幼児教育の現場において、子ども達と向き合い教

地

域に根ざした児童教育施設として

幼稚園は地域性の高い教育施設です。それぞれの園は建学精神に基づき設立されました。長い歴史を持つ幼稚園が多く、地域の中でなくてはならない存在であると存じます。私達はいつの時代も課題を抱えながら、子ども達のために困難を乗り越えてきました。これからも永続的に発展していくためには、不斷の努力が必要です。地域をしっかりと見つめる中で、保護者の期待に応えられるよう、教育の質の向上や維持につとめなければなりません。

就園奨励費の完全実施を

そしてまた、職場で働く先生方の幸せも実現できるよう、働きやすい職場作りにもご努力をお願い申し上げます。幼稚園の先生を目指す若者を一人でも多く増やし、子育てから卒業した就労していない経験者も受け入れながら、理想的な教育環境を築いて頂きたいと願つております。

平成二十七年度も役員が一丸となり、私立幼稚園の振興と発展に貢献していくたいと存じます。引き続き加盟園各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成27年度役員名簿		
役職名	氏名	園名
顧問	遠藤 匡弘	伸びる会
顧問	永保 固紀	理事長・園長 田名
理 事 会 副 会 長	小澤 俊通	理事長・園長 厚木田園
振 総 研 究 委 員 会	鈴木 伸司	理事長・園長 みゆき
研修事業部	安西 透	園長 平和
経営管理部	○山本 安雄	理事長・園長 鈴鹿
研修事業部	武藤 保之	園長 友愛
経営管理部	○輿 俊道	理事長・園長 北鎌倉
振興部	○木元 茂	園長 幸ヶ谷
振興部	渡邊 真一	理事長・園長 初音丘
財務室長	渡井 和佳	代表役員・園長 マヤ
研修事業部	山崎 和子	園長 鶴見大短期大学附属三松
振興部	○伊藤 夏夫	園長 丸山
振興部	○大澤 一之	園長 松風
総務部長	苅込 大	理事長・園長 横浜さがみ
振興部長	石井 和則	理事長・園長 原
研修事業部長	田中 伸宜	園長 綾南
研究部長	亀ヶ谷忠宏	園長 宮前
経営管理部長	池田 清	園長 ふじがおか第二
総務部広報室長	川崎 永	理事長・園長 つくしの
総務部次長	鈴木 豊司	主事 横須賀
振興部次長	仁藤 一成	理事長 川崎こまどり
研修事業部次長	山田まり子	理事長・園長 若竹
研究部次長	黛 裕治	理事長・園長 清心
経営管理部次長	近藤 康弘	理事長・園長 名瀬
振興部	○竹折 輝隆	理事長・園長 横須賀若葉
振興部	○青木 敏雄	理事長・園長 青木
振興部	○坂部 春美	園長 茅ヶ崎松若
振興部	○平松 章子	園長 新玉
振興部	○岩本 勉	理事長・園長 南大野
振興部	○石渡 淑恵	園長 聖マリア
振興部	○和田 貴樹	理事長・園長 光ヶ丘
総務部	森田 裕明	理事長・園長 早苗
振興部	田野岡由紀子	園長 山王台
研修事業部	江津 秀子	園長 八幡橋
研究部	鬼頭久美子	園長 プリンス
経営管理部	高根 文雄	園長 横浜・モンテッソーリ
研究部	澤井 政巳	理事長・園長 新大船
経営管理部	石川 義仁	理事長・園長 いしかわ
経営管理部	清水 満正	副園長 まきが原
総務部(財務)	和田 嘉明	理事長・園長 柏
総務部	平山 方夫	園長 菅
経営管理部	丸山 吉子	園長 大船カトリック
経営管理部	杉崎 直人	園長 茅ヶ崎すみれ
総務部(財務)	渡邊 健樹	理事長 伊勢原立正
研究部	青木 正子	理事長・園長 平塚めぐみ
経営管理部	村上 裕	園長 あけの星
振興部	山口 繁美	理事長・園長 つるま
振興部	小山 直久	理事長 伊勢原山王
総務部(広報)	高野 正基	理事長 湘南台
監事	豊田 泰治	園長 まつなみ
監事	押本 靖貴	副園長 押本経営労務事務所

私立幼稚園の情報発信基地

経営管理部担当
輿 俊道



平成二十六年五月より神奈川県私立幼稚園連合会の副会長の任に就いて既に一年が経ちました。初めは連合会とはどんな組織か、また、それぞの部署がどのような役割を担っているかも存じ上げていませんでしたが、この一年間携わさせていただいた中で再認識させられました。神奈川県内にはおよそ五八〇の加盟私立幼稚園がございますが、幼児教育の基本が共通することは勿論の事ですが、それぞの園独自のやり方もあると思いません。学校法人が数多くの中、宗教法人や個人立も存在していることが実情です。

副会長としての抱負

研修事業部担当
武藤保之



湘南地区推薦の副会長として二年目を迎えた小田原私立幼稚園協会 友愛幼稚園の武藤と申します。

これから幼稚園教育に対し、より一層の公共性が位置付けられてまいりました。私は県連合会とは公平な立場で行政や地区協会のまかないきれない地区に対する対応など逐次情報を共有し、適切な対応を伝えるツールとして存在すると考えます。五地区十二協会の中での情報を一

経営管理部担当
輿 俊道

平成二十六年五月より神奈川県私立幼稚園連合会の副会長の任に就いて既に一年が経ちました。初めは連合会とはどんな組織か、また、それぞの部署がどのような役割を担っているかも存じ上げていませんでしたが、この一年間携わさせていただいた中で再認識させられました。神奈川県内にはおよそ五八〇の加盟私立幼稚園がございますが、幼児教育の基本が共通することは勿論の事ですが、それぞの園独自のやり方もあると思いません。学校法人が数多くの中、宗教法人や個人立も存在していることが実情です。

連合会では毎月運営委員会を行っていますが、五地区十二協会を代表する園長先生方がお集まりになり、様々な事案を審議・検証をされています。そういった中で連合会とは情報交換に最も適した存在であり、それぞれの園が抱えている悩みを一つでも多く解決する場でなくてはならないと感じました。同じ市内の幼稚園との交流も大切ですが、他市の幼稚園の動向にも目を向けることで、新たな発見があると気づかされました。园の先生方（教職員も含む）が連合会という組織の存在を認知していただきたいとも思いました。

研修事業部担当
武藤保之

湘南地区推薦の副会長として二年目を迎えた小田原私立幼稚園協会 友愛幼稚園の武藤と申します。

これから幼稚園教育に対し、より一層の公共性が位置付けられてまいりました。私は県連合会とは公平な立場で行政や地区協会のまかないきれない地区に対する対応など逐次情報を共有し、適切な対応を伝えるツールとして存在すると考えます。五地区十二協会の中での情報を一

連合会のあり方

研究部担当
山本安雄



表題のテーマで、文を書けとの依頼を受けましたが、もともとないそんな事を考えて、この立場になつたわけでは無く、巡り合わせの順番で副会長になつただけなので、県連合会はこうあるべきだ、等と言うことが書ける筈もないのですが、書けという事ですので、少し考えてみました。結論から書くと、連合会の存在意義が、ただただ補助金のためという受け止め方をしている設置者が多い気がしてならないのです。ここ数年の新制度に關することも、結果を見れば、「補助金少ない、だから補助金をもっと増やして」という要望が前面に出るし、一方、新制度に移行しないにしても、「経常費補助金の増額を！」という要望が前面に出る。新制度は、制度設計その

研究部担当
山本安雄

私の考える連合会

総務部担当
安西透



横浜市幼稚園協会の加盟園は現在二五五園、在園児数は約五万名で、県内十二協会の中でも一番大きな協会となっています。そのようなことからも県連合会の中心となつて活動していかなくてはならないと考えますが、活動の中心が研修・研究ということで横浜協会が単独で行っている研修・研究活動と内容的に重なっている部分がたくさんあり、また、その他の活動も多種多様に行つており、連合会の活動に参加できていないのが現状です。

しかし私学助成の予算要望、また認可が県であることから連合会の果たす役割は大きく、幼稚園運営に多大な影響が

研究部担当
山本安雄

市町村ごとの新制度だからこそ、県連としての役割が

振興部担当
鈴木伸司



川崎地区から選任され三期目の副会長を務めます。昨年度、小澤新会長の下に順調にスタートした県連合会の新体制も二年目を迎えました。やはりここ数年、幼稚園関係者の最大の関心事は、今年度より施行された子ども・子育て支援新制度のことと挙げます。制度がしっかりと固定しないうちの見切り発車的な部分も多いようなので、今後も市町村の対応にしつかり目を光させていかなければならないと感じています。

全園加盟の八十六園からなる川崎協会は、認定こども園の二園を含め新制度に移行したのは六園にとどまっています。

私の考える連合会

副会長が考える県連合会のあり方

この制度が具体化してきた頃、「これからは市の所管になるのなら県連の役割は無くなるのでは」という言葉も聞こえてきました。しかし、私は市町村によりバラバラに進められてしまふ制度、そしてこんな時代だからこそ、県連合会の存在意義は更に高まると思います。県下全体を見渡し、各十二協会の課題や悩みを分かち合って、幼稚園団体として情報を共有することの重要性を感じています。そして広い見地に立つた、県連合会としての情報発信、課題解決への取り組みが益々大切になってくるはずです。

幼稚園にとつての新制度には、まだまだ課題や疑問点が沢山あるように感じています。今回

あります。

今年度から新制度がスタートし、横浜では認定こども園新幼保連携型・幼稚園型と施設給付型にそれぞれ移行した園があります。移行した園は横浜市の場合、認可と給付は政令市のため横浜市へ移譲されたので、市との関係がこれからは重要視されると考えています。しかし、国の給付費の基本的な考え方は私学助成と保護者負担額から決められていますので、私学助成の額が上がつていかなければ給付費も上がつていかないのが現状です。

このように新制度がスタートしたとはい、連合会の果たす役割は大きく、園児減少が始ま

ります。

今年度から新制度がスタートし、横浜では認定こども園新幼保連携型・幼稚園型と施設給付型にそれぞれ移行した園があります。移行した園は横浜市の場合、認可と給付は政令市のため横浜市へ移譲されたので、市との関係がこれからは重要視されると考えています。しかし、国の給付費の基本的な考え方は私学助成と保護者負担額から決められていますので、私学助成の額が上がつていかなければ給付費も上がつていかないのが現状です。

このように新制度がスタートしたとはい、連合会の果たす役割は大きく、園児減少が始ま

ります。

これまで、私学助成に残る決断をした園も新制度に移行した園も、また今後移行を検討していく園も、県内全ての園が子ども達の育ちと幸せいっぱい園生活を保障できなければなりません。加えて、我々園長や幼稚園に働く先生方が将来に希望を持って進んでいくように道標を示していくことも、これらの連合会の大きなテーマだと思います。

振興部の担当副会長としての立場も重く受け止め、微力ながら今年度も努力していく所存です。よろしくお願い申し上げます。

補助金の格差など、現地ではなかなか解決出来ない問題が多くあります。県当局に連合会の力で調整をお願い出来るようになりますので、やっと考えて、以上のことを書きましたけれど、誰も受け入れてくれないかな？。

副会長という重責ですらままならないことで、まだまだ幼稚園の先生としても未熟ではあります。ですが、未来を担う子どもたちのために、尽可能すればならないことが数多くあるとつくづく実感させられました。今年度も宜しくお願ひ致します。

補助金の格差など、現地ではなかなか解決出来ない問題が多くあります。県当局に連合会の力で調整をお願い出来るようになりますので、やっと考えて、以上のことを書きましたけれど、誰も受け入れてくれないかな？。

副会長という重責ですらままならないことで、まだまだ幼稚園の先生としても未熟ではあります。ですが、未来を担う子どもたちのために、尽可能すればならないことが数多くあるとつくづく実感させられました。今年度も宜しくお願ひ致します。

今年度の活動方針

今年度の活動構想



総務部

今年度の活動構想

総務部長 荻込 大

今年度も昨年度同様、県連運営が滞りなく運営できるよう、各部と連携を密にすることが大切であると考えます。その中でも特に、本年度四月からスタートした「子ども・子育て支援新制度」に関しての情報提供や幼稚園教諭の人材確保に関して、積極的な対応を考えなければなりません。

昨年度までは、各幼稚園が新制度移行の検討材料となるよう、子ども・子育て新制度対策研究委員会を通して、新制度への理解を深めるための各市町村の情報収集並びに提供を行ってきました。昨年度に関しては不明確な事項が多い中、県全体で十七%ほどの幼稚園が新制度に移行しています。今年度は移行を見送った幼稚園の中でも、今後は移行を検討する幼稚園も多数あるのではないかと思います。その園の為にも、今年度からの「新制度対応特別委員会」を通して、すでに移行した園の状況や各市町村の対応等の情報収集並びに提供を行っています。

ここ数年、幼稚園教諭の人材確保が難しく、各協会でもその対応を検討実施されていることと思いますが、県連とともに例年同様その対応を積極的に行っていきたいです。昨年度は新卒者を対象とした催しの他に、既卒者を対象としたセミナーの開催も行いました。多くの先生方になくてはならない研修事業を多く担当していると思つております。

すでに実施したものもありますが、○統合保育基礎講座が五月十五日(金)、六月二十五日(木)、九月一〇日(木)、一〇月二十一日(木)の全四回。

○免許状更新講習会が七月二十七日(月)二十八日(火)の二日間鶴見大学で必修。秋には一〇月二十四日(土)二十五日(日)、十一月七日(土)の三日間小田原短期大学で選択。

○中堅教諭対象講習は昨年好評だった横浜美術館で七月二十二日(水)。

○公開研究保育が今年度は横浜と三浦半島地区で開催されます。八月四日・五日につくば国際会議場他で関東地区教育研修茨城大会が開催されますが、神奈川からも一フオーラムを担当します。

昨年度開催した園内研修も計画しておりますが、詳細が決まりましたら随時ご案内していきます。

特に今年度は鶴見大学でも免許状更新講習が開催されます。連合会の必修十二時間に繋げる形で鶴見大学の選択十八時間講座が開設されます。合わせると三〇時間連続で鶴見大学での免許状更新講習が取得できる形となります。連合会を通しての申し込みとなります。手続きの違いにご留意ください。

より多くの先生が研修に参加できますよう、設置者・園長先生のご理解とご協力をお願い申上げます。

新年度を迎え、今年度の活動方針について、各部長・室長に聞きました。

新制度に関しても、人材確保の問題にしても容易に解決できることではありませんが、県連加盟園の皆様にとって少しでもお役に立てるよう活動して行きますので、ご協力のほど宜しくお願ひ致します。



振興部

変革の年

将来の幼稚園の展望を見据えて



振興部長 石井 和則

先生方のご支援とご協力をいただき、県知事及び県議会議員への予算・政策の要望活動や次世代育成課との協議、父母の会連合会の研修大会、幼稚園教育経営研修会などの事業を中心につけていきたいと思います。

今年度は、四月より『子ども・子育て支援新制度』がスタートし、幼稚園にとっては一大改革の年となりそうです。県内新制度に移行した園は十七%にとどまり、ほとんどの園が私学助成を選択する結果となり、すでに認定こども園になっていた園や一〇二条園については非常に難しい選択を迫られたことと思います。この一年間で新制度の課題や改善点が色々と浮き彫りになってくるかと思いますので、今後さらに情報を共有し、動向を慎重に見据えていく必要があります。人口の減少、少子化、母親の就労希望による入園児の減少など社会構造の変化に伴う地域社会や家庭環境の実態を把握しながら、多

く研究部

『今だから考えよう！
幼稚園教育の本質を！』

研究部長 龟ヶ谷 忠宏

平成二十七年度は、継続研究もまとめの年
ということでおおきな大会で
神奈川県連五年間の大会テーマ
マ『今だから考えよう！幼稚園教育の本質を！』

を基に、一つひとつ研究の内容をしつかりと深めていきたいと考えています。

『公開保育』を行いながら、その園の『園内研修力』を高めることの支えとなるための全日の『公開保育コーディネーター養成講座』にA部会の協力を得ながら今年度は佐伯妙有先生、江津秀子先生に参加して頂きます。

A部会では、『児童理解と園内研修』『公開保育を通して自園の研修のあり方を考える』をテーマとし、佐藤康富先生に助言して頂きます。

『若手後継者のための保育勉強会』もその結果たす役割意義が増していることを感じます。今年度は、新しい制度の実施を踏まえ、これから幼稚園・保育所・認定こども園のあり方や方向性などについて研究や観察研修を通して学びを深めています。

また資質向上セミナーでは、もと研究部長の志村雄治先生に、日本の児童教育史『日本幼稚園はなぜあそびを中心主義から学び中立主義まで極端に違ってしまったのか』―明治時代からの教育を振り返り、今後の児童教育に生かすべきを語つて頂きました。

その他、関地区大会、新探研、児童教育実

研究部

『今だから考えよう！
幼稚園教育の本質を！』

研究部長 龟ヶ谷 忠宏

平成二十七年度は、継続研究もまとめの年
ということでおおきな大会で
神奈川県連五年間の大会テーマ
マ『今だから考えよう！幼稚園教育の本質を！』

を基に、一つひとつ研究の内容をしつかりと深めていきたいと考えています。

『公開保育』を行いながら、その園の『園内研修力』を高めることの支えとなるための全日の『公開保育コーディネーター養成講座』にA部会の協力を得ながら今年度は佐伯妙有先生、江津秀子先生に参加して頂きます。

A部会では、『児童理解と園内研修』『公開保育を通して自園の研修のあり方を考える』をテーマとし、佐藤康富先生に助言して頂きます。

『若手後継者のための保育勉強会』もその結果たす役割意義が増していることを感じます。今年度は、新しい制度の実施を踏まえ、これから幼稚園・保育所・認定こども園のあり方や方向性などについて研究や観察研修を通して学びを深めています。

また資質向上セミナーでは、もと研究部長の志村雄治先生に、日本の児童教育史『日本幼稚園はなぜあそびを中心主義から学び中立主義まで極端に違ってしまったのか』―明治時代からの教育を振り返り、今後の児童教育に生かすべきを語つて頂きました。

その他、関地区大会、新探研、児童教育実

広報室

充実した会報発行に向けて

広報室長 川崎 永

新制度施行元年となつた平成二十七年度が始まって早くも二ヶ月が経ちます。間もなく梅雨入りをすることと思いますが、各園では充実した園生活をお過ごしのことだと思います。さて、今年度も会報を中心とした広報室活動がますます充実発展するようにしていきました。三ヶ月に一回発行する会報の内容は、県連加盟園の情報、県連役員挨拶と各地区協会のトピックスや県連主催の研修会講習会のお知らせと報告、そして神奈川県知事や各行政機関等からの期待や協力といった各方面の多岐に渡るもので、特に様々な問題を抱えながらスタートした子ども・子育て支援新制度については、移行園を中心に具体的な情報をお伝えできるよう努力をしたいと考えております。

いずれにしましても、広報室活動の方針としては、

財務室

収支バランスの見直し

財務室長 渡井 和佳

新制度施行元年となつた平成二十七年度が始まって早くも二ヶ月が経ちます。間もなく梅雨入りをすることと思いますが、各園では充実した園生活をお過ごしのことだと思います。さて、今年度も会報を中心とした広報室活動がますます充実発展するようにしていきました。三ヶ月に一回発行する会報の内容は、県連加盟園の情報、県連役員挨拶と各地区協会のトピックスや県連主催の研修会講習会のお知らせと報告、そして神奈川県知事や各行政機関等からの期待や協力といった各方面の多岐に渡るもので、特に様々な問題を抱えながらスタートした子ども・子育て支援新制度については、移行園を中心に具体的な情報をお伝えできるよう努力をしたいと考えております。

いずれにしましても、広報室活動の方針としては、

7

様な教育・保育の一ีずに対して柔軟に対応していくかなければ園存続の危機ともなります。今年度の私学助成（私立幼稚園への経常費補助金）は大きく伸びましたが、依然として私立幼稚園に対する財政支援は全国でも最低のランクになっています。振興部として、幼稚園教育の重要性をさらに訴え、各園が建学の精神のもと、より安定した幼稚園経営を開拓するよう、一層県連の皆様と手を携え、引き続き新制度の動向や情報を収集提供できるよう努めると同時に、県や関係当局への予算要望活動・折衝を積極的にアピールしていく必要があります。

新制度に関して、人材確保の問題にしても容易に解決できることではありませんが、県連加盟園の皆様にとって少しでもお役に立てるよう活動して行きますので、ご協力のほど宜しくお願ひ致します。

振興部では、本年度も各園の設置者・園長先生方のご支援とご協力をいただき、県知事及び県議会議員への予算・政策の要望活動や次世代育成課との協議、父母の会連合会の研修大会、幼稚園教育経営研修会などの事業を中心につけていきたいと思います。

今年度は、四月より『子ども・子育て支援新制度』がスタートし、幼稚園にとっては一大改革の年となりそうです。県内新制度に移行した園は十七%にとどまり、ほとんどの園が私学助成を選択する結果となり、すでに認定こども園になっていた園や一〇二条園については非常に難しい選択を迫られたことと思います。この一年間で新制度の課題や改善点が色々と浮き彫りになってくるかと思いますので、今後さらに情報を共有し、動向を慎重に見据えていく必要があります。

人口の減少、少子化、母親の就労希望による入園児の減少など社会構造の変化に伴う地元社会や家庭環境の実態を把握しながら、多

本年四月より新制度がスタート致しましたが、採用難という課題に対しても施設類型による差はございません。一人でも多くの学生をかけ就職セミナーを実施致しました。

前号の神私幼でも概要をご報告させて頂きましたが、年度途中にチャレンジした事業とはいえ、新卒者は比較にならないほどマッチングの難しい事業であったと痛感しております。働き方の多様化は私たち業界も例外ではありません。経験と若さのバランス、勤務形態の多様化という幅野を広げていく一步一歩の歩みの中にこそ、活路が開かれます。そんなことを実感した一年目でした。県より審査結果が示され、今期の事業も運営部の事業に温かいご支援とご理解を頂戴しておりますことを心より感謝申し上げます。

二年目の任期が四月よりスタート致しました。今期も『就職相談会』をメインイベントに据えつつ、会員各園の経営に関わる、とりわけ人材確保の観点から微力ながらその一助となる情報提供ならびにイベント企画・実行して参ります。

『就職相談会』(新卒者向け)を今年も七月四日に実施する予定です。早いものでこの企画も今期で五回目となります。一年毎先生方と貴重なお時間を共有させて頂く中で、この会合が請け負うことについて先日決定致しました。昨季は約二五〇名の学生がようちえん会館を訪れて、真剣な眼差しで私たち設置者・園長の話を耳を傾けてくれました。

『就職相談会』(新卒者向け)を今年も七月四日に実施する予定です。早いものでこの企画も今期で五回目となります。一年毎先生方と貴重なお時間を共有させて頂く中で、この会合が請け負うことについて先日決定致しました。今期も『就職相談会』をメインイベントに据えつつ、会員各園の経営に関わる、とりわけ人材確保の観点から微力ながらその一助となる情報提供ならびにイベント企画・実行して参ります。

『就職相談会』(新卒者向け)を今年も七月四日に実施する予定です。早いものでこの企画も今期で五回目となります。一年毎先生方と貴重なお時間を共有させて頂く中で、この会合が請け負うことについて先日決定致しました。今期も『就職相談会』をメインイベントに据えつつ、会員各園の経営に関わる、とりわけ人材確保の観点から微力ながらその一助となる情報提供ならびにイベント企画・実行して参ります。

会員の皆様方には日頃より県連合会、経営管理部の事業に温かいご支援とご理解を頂戴しておりますことを心より感謝申し上げます。

会員の皆様方には日頃より県連合会、経営管理部の事業に温かいご支援とご理解を頂戴しておりますことを心より感謝申し上げます。

6

平成27年度 研修事業部・研究部事業予定表

研修事業部主催事業

- (1) オープン講座 12協会
研究会の開催及び研究事業の奨励
- (2) 家庭教育講座 9協会
研究会の開催及び研究事業の奨励
- (3) 公開研究保育研修会
私立幼稚園の教育の自由性と保育の質の高さを担保し、永続していくための研修会
- (4) 10年経験者研修会
教職員の資質向上のための研修会
- (5) 免許状更新講習会
- (6) 連続研修会"園内研修"
各園の保育者集団が自ら保育力を高めていくための園内研修の構築を学ぶ研修
- (7) 統合保育基礎講座
上原 文先生 かながわようちえん会館
*5月15日(金)、6月25日(木)、9月10日(木)、10月22日(木)
全4回 テーマ『幼児教育を考える』
- (8) 中堅教諭対象講習会
7月22日(水) 横浜美術館
- (9) 第30回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修茨城大会

研究部主催事業

- (1) 地区別教育研究大会 5地区
県連テーマに基づいた大会の開催及び研究活動の奨励
- (2) 研究特別委員会(2委員会)
かながわようちえん会館
幼稚園教育に関する今日的課題を取り上げ、調査研究する。
各部会年間8回程度開催
A.「幼児理解と園内研修」 佐藤康富 先生
B.「幼児理解と評価」 相馬靖明 先生
- (3) 新規採用教員研修会
県私学振興課・子ども教育支援課と連携を図りながら新任教諭ための講習会の企画と実務
*5月20日(水) かながわようちえん会館
1.「保育者の役割—新人に求められるものー」 塩 美佐枝 先生
*6月3日(水) 神奈川県立体育センターアリーナ
1.「体験しようアドベンチャー教育 第1回」 白山 明秀 先生
*6月17日(水) かながわようちえん会館
1.「子どもの心に寄り添う保育—子どもの見方・捉え方ー」 小泉 裕子 先生
*8月4日(火) 小田原短期大学
1.「指導計画作成について—経験の多様性・連続性ー」 佐藤 康富 先生
- (4) 資質向上セミナー
教育史を学ぶ・教職員の資質向上のための研修会
11月30日(月) かながわようちえん会館 志村 雄治 先生
- (5) 若手後継者のための保育勉強会
主に若手後継者を対象に保育実践を通して勉強を深めていく
年間5回程度開催
- (6) 男性保育者勉強会
6月22日(月) かながわようちえん会館 相馬 靖明先生
- (7) 第30回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修茨城大会

対外的事業

- (1) 第30回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修茨城大会
8月4日(火)・5日(水) つくば国際会議場 他
教員の資質向上のための研究講座
フォーラム2「幼児自らが学ぶための保育者の役割」 提案園 しらかば幼稚園・片瀬山幼稚園
- (2) 教育課程等神奈川県研究協議会
7月27日(月)・28日(火) かながわようちえん会館・県民センター
提案園 あけぼの幼稚園・楠幼稚園
- (3) 教育課程中央協議会
12月予定
- (4) 園長等運営管理協議会
7月7日(火) かながわ労働プラザ
- (5) 保育技術協議会
8月7日(金) 地球市民かながわプラザ
- (6) 幼稚園教育相談コーディネーター養成研修講座
5月～7月 各幼稚園・8月24日(月) 県民センター
- (7) 全県幼稚園教育課程研修講座
8月28日(金) かながわ県民センター
- (8) 幼・保合同研修講座
10月30日(金) かながわ県民センター
- (9) 幼・保・小連携研修講座
11月26日(木) かながわ県民センター
提案園 田園調布学園大学みらいこども園
- (10) 公・私立幼稚園合同経験者研修講座
1月20日(水) かながわ県民センター
- (11) 幼稚園新規採用教員等研修運営協議会
10月7日(水)・2月17日(水) かながわ県民センター
- (12) 幼児教育実践学会
8月18日(火)・19日(水) 福島県郡山市

研修事業部・研究部

活動報告

特研A部会



講師
鎌倉女子大学短期大学部
教授 佐藤康富先生

幼児理解と園内研修～公開保育を通して自園の保育を見直す

な位置づけになつてきました。見る方も見られる方が充実した公開保育にするための手段として事前に見られるポイントを押さえることは大切です。

当日はそのポイントを基に見学をする中で、各部屋で見学した人の思いを発信できる付箋を活用することでその後の話し合いに、より深まりが出てきました。ここでの意見を見る取り組みをして公開保育を行い、断然ですが、話し合いを進めて行くにつけ様々な角度から子どもを見られるようになりました。その過程でアシリテーターとしてポイントを押さえたり話し合いをやすい環境を作つたりする人の育成も重要な要素を深めてきました。

たつて幼児理解はその根底にあります。児を理解するために様々な方法で取り組んで参りましたが、近年実際に子どもたちの

様子を見る取り組みでその環境や理念に触れて話し合いを深めました。

とにかく私たちは自分の見方で子どもを判断しながらですが、話し合いを進めて行くにつけ様々な角度から子どもを見られるようになりました。その過程でアシリテーターとしてポイントを押さえたり話し合いをしやすい環境を作つたりする人の育成も重要な要素を深めてきました。

特研B部会



講師
和泉短期大学児童福祉学科
准教授 相馬靖明先生

昨年度に引き続き、講師に和泉短期大学の相馬靖明先生をお迎えし、幼児理解と評価、ドキュメンテーションについて学びます。

相馬先生によりますと、企業を対象とした研究では、研修での学びの転移を促す要因として、「研修内容を試すことを上司が支持している」「研修から帰ってきた直後に学んできたことを試行できる」などが挙げられているそうです。

そこで、今年度のB部会は、全体を「一

学期」「二学期」「三学期」の三期に分け、それぞれ「初夏」「夏」「秋」「冬」に特徴的な活動のワークショップを体験し、その活動を自園の環境に合わせて構想しながら実

践していく。

その後、活動時の写真など映像記録を持ち寄り、それぞれの園でどのように子どもが環境とかかわり、活動が発展していった

レッジョ・エミリアのドキュメンテーションやニュージーランドのラーニング・ストーリーズは「学びの物語」と言われています。

保育者は子どもが日々つくり出すあそびの世界に嬉しがりながら、その物語を「誰かと一緒に見てもらいたい」という意欲をもつて取り組むことがドキュメンテーションの基本になります。子どもがしている行為の意味や視点、子どものいやプロセス（成長過程）を具体的なエピソードとして他園の先生方と話し合いながら、様々な角度から子どもがあそびの拡張的理解を深めていきたいと思います。

（文責：澤井政巳）



若手後継者のための保育勉強会

新制度の実施を踏まえ、これから私立幼稚園のあり方と保育の質の向上を考える

研究部 久富多賀子

新制度は実施されましたが、まだ移行については慎重に検討している園が多いこと思います。しかし、新制度の園であっても保育の質が変わるものであつてはなりません。平成二十七年度の若手後継者の会では、玉川大学教授・四季の森幼稚園園長の若月芳浩先生に全5回をコーディネートしていただき、年間を通してつながりのある

会を持ちたいと思っています。そして、新しい制度の実施を踏まえ、これからの幼稚園・保育所・認定こども園の「子どもを中心とした保育のあり方」について、若手後継者を中心に研究や視察研修を通して学びを深めることを目的とします。

第一回目は、講師に和泉短期大学准教授の相馬靖明先生・峯岡幼稚園園長の西

今年も上原文先生をお招きし、統合保育基礎講座を開催出来る運びとなりました。今年の大きなテーマは『幼児教育を考える』と致しました。このテーマにはたくさん意味や思いが含まれています。昨今、「いわゆる障がいを生まれ持つている子」の他に、「気になる子」や「落ち着きのない子」など「特徴をかかえた子」が増えていました。子どもたちの状態が変化し由が重なり、子どもたちの状態が変化していることがその一端と考

べられます。

この研究会では、統合保育の基本は勿論のことではありますが、そこに特に特化せず、「特徴をかかえた子」を含めた全ての子どもたちへの具体的な対応方法や分かりやすい保育、幼児教育の基本を学びます。

そして子ども・子育て支援新制度が始まっています。三・四・五歳児のみならず、〇・一・二歳児や保護者支援にも目を向けていなければと思います。子ども理解、環境への配慮、保育の工夫などを学ぶことで、先生たちが保育に向かう姿勢が明確になります。学んだことを考え、活かし、実践し、積み重ねていくことで子どもが変わります。上原先生のお力添えを頂き、受講者の皆様と一緒に、幼児教育の根本を考えていければと願っています。

全ての子どもへの幼児教育を考えましょう

研修事業部次長 山田まり子

な位置づけになつていました。見る方も見られる方が充実した公開保育にするための手段として事前に見られるポイントを押さえることは大切です。

（文責：佐伯妙有）

いよいよスタート。 新制度元年！

今春、横浜市の幼稚園・認定こども園（計二八〇園）の約二割が新制度に移行しました。移行園はこれまでの半年、横浜市の事業者説明会への出席、事務手続きと準備、さらには園則変更・重要事項説明書や運営規定作りと保護者向け説明会など、落ち着かない時期を過ごしました。

一方、今回の新制度は、横浜市にとっても初めての試みであり、幼稚園や認定こども園だけではなく、全ての保育施設（認可・認可外・小規模保育・家庭的保育等）約六五〇園も含むオール横浜の教育・保育革命とも言える大事業となりました。国の基準以上に助成額を増やし、請求システムも開発するなど他の自治体と比べても、相当な努力をしてきました。しかし、国からの最終的な情報提供の遅れもあり、まさに走りながら考へるという状況の為、参加している当事者としては毎日ハラハラ、ヤキモキの半年でした。

これから、四半期位が経過すると落ち着いてくるでしょうし、改善の必要な点については、行政担当部署にもしっかりと伝え、後に続く園が困らないようにす

るものが協会としての役割だと考えています。さて、横浜市では平成二十七・二十八年度の二年間は保育所から認定こども園への移行について見合わせることになりました。待機児解消が優先のため、一号認定の枠を確保する認定こども園化には待ったが掛かったのです。しかし、今後は保育所同士での差別化のために「認定こども園」という看板は必要だと語る保育園の園長先生もいます。二十九年度以降は保育所がベースの認定こども園も増えるはずです。

現在、横浜市の行政担当は〇～二歳児の保育所を多く整備し、三歳児以降は幼稚園で担つてもらいたいと考えています。また、保護者も保育ニーズだけでなく質の高い教育に対してもニーズがあります。永年培ってきた幼児期の質の高い教育を市民の皆さんに理解していただき、幼稚園を選択していくためにも、各区内で幼稚園情報を提供するイベントを開催したり、地元の小規模保育事業者や家庭的保育事業者との連携の機会も増やし、横浜市の幼稚園をどんどんアピールする機会を増やす必要があります。

“絆が大切”

まず始めに私達の幼稚園が立地する横須賀市は、三浦半島の中央部に位置し、市域面積は一〇〇平方キロメートル余、人口は四十一万人の中核市、東京湾と相模湾に囲まれ、自衛隊や米海軍の基地が所在し、一方で山々が連なり気候も温暖な環境の所です。

そういった中で、人の心はどちらかと言いまして穏やかで明るい、そういう良さがあります。しかし、それだけに時には必要な気性の激しさをあまり持ち合わせていないとも言えるでしょう。

つまり、半島特有の人や物の流れに限られたものがあることが要因の一つとも考えられています。

横須賀市私立幼稚園協会は、こそ始めて私達の幼稚園が立地する横須賀市は、三浦半島の中央部に位置し、市域面積は一〇〇平方キロメートル余、人口は四十一万人の中核市、東京湾と相模湾に囲まれ、自衛隊や米海軍の基地が所在し、一方で山々が連なり気候も温暖な環境の所です。

そういう良さがあります。しかし、それだけに時には必要な気性の激しさをあまり持ち合わせていないとも言えるでしょう。

つまり、半島特有の人や物の流れに限られたものがあることが要因の一つとも考えられています。

横須賀市私立幼稚園協会は、このように、その心をもつて他人をおもいやる）の心を育みつつ、社会人となつてくよう、その舵取り役を担つていています。

加盟三〇園の園長先生方は、この使命感のもとお互いの「絆」（園児達との「絆」、それぞの「絆」）を大切に、彼らがやがて日本人に

とつて大いに役立つ大人に成長することを究極の目標に掲げて日々幼稚園教育に邁進しております。

厚木地区私立幼稚園協会は厚木市十六園と愛川町四園の二〇園で組織されている協会です。厚木市・愛川町共に公立の幼稚園は無く、幼稚園教育の全てを私学に委ねて頂いている地区もあり、それ故に行政との連携が良好な地区もあります。

厚木市は子育て環境の日本一を目指す事を一つの目標に据え、幼稚園教育のみならず子育てに関する様々な施策を実施して頂いています。またその他にも全国で三番目にWHOのセーフコムニティーの承認を受けたり、日本経済新聞の経営革新度調査で全国一位の評価を受けるなど、市民生活の向上に力を入れている街でもあります。

また、昨年は待機児童対策の一つとして駅前の市の施設で、朝に児童を預かり希望の幼稚園に送迎する「駅前ステーション」

行政と共に

厚木地区私立幼稚園協会
協会長 和田 貴樹
http://www.kidslink.jp/cgi-bin/lib/index_x.cgi?efldr=atsugi-shiyo&page=2&sub=0

①〒243-0032 厚木市恩名3-11-55(光ヶ丘幼稚園)
(事務局) 〒243-0003 厚木市寿町2-6-19(ちぐさ幼稚園)
②046-222-2561 (事務局) 046-221-0730
③046-224-3001 (事務局) 046-205-0031
④20園
⑤(学校法人) 19園 (個人) 1園



公益社団法人横浜市幼稚園協会
協会長 木元 茂
<http://www2.kids-yokohama.or.jp/~kidsyoko/>

①〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25
横浜ポートサイドプレイス509アネックス5F
②045-534-8708
③045-453-1120
④255園
⑤(学校法人) 212園 (宗教法人) 25園 (個人) 18園



事業を立ち上げるなど市内の幼稚園、そして幼稚園協会に対して色々な支援をして頂いています。この事業はまだ軌道に乗っていませんが他の事業・補助と同様にこれからも積極的に行政と関わり、それぞれの事業が成功していくよう、私達も協力して行く事が重要です。

新制度がスタートしました。地区内で移行した園は厚木市内の認定こども園三園と個人立一園の四園ですが、厚木市では新制度に向けて他の地区よりもかなり早くからリサーチをかけて頂き、まだまだ不十分と言わざるを得ませんが、それなりの補助が可能になっています。しかし協会として更なる補助の拡充を目指さねばなりません。

私達のような小さな協会では、協会の力は微力ですが、だからこそ行政との連携を密にし、行政の力を最大限生かす工夫が私たちの協会の大きな役割の一つです。これからもこの役割をしっかりと果たし、それぞの幼稚園そして幼稚園協会の更なる発展の為に努力して行きたいと考えます。

シリーズ 12協会長に聞きました

①所在地(事務局所在地) ②電話番号 ③FAX番号 ④加盟園数 ⑤設置区分

平成二十七年度のスタートに当たり小田原協会は、昨年度までは十一園で運営されていましたが、二十七年度より新しい仲間が増え十二園でスタートし、四園が新任園長先生を迎えるました。

かつてない異動で初心に帰り、みんなで力を合わせて進んでまいりたいと思います。

新制度がスタートしましたが、小田原協会においては、

移行せず、私学助成の幼稚園で全園が運営してまいります。

当協会は他協会とは違ひ二市一町、その中で公立園と私立園

新たなスタート

小田原私立幼稚園協会
協会長 平松 章子
<http://www.kidslink.jp/yokoshibyou/>

①〒250-0011 小田原市栄町4-6-5(新玉幼稚園)
(事務局) 〒250-0877 小田原市上新田130(鴨宮幼稚園)
②0465-22-4060 (事務局) 0465-47-4251
③0465-22-7067 (事務局) 0465-47-4252
④12園
⑤(学校法人) 10園 (個人) 2園



がほぼ同数あります。ここ数年は、市の教育委員会との意見交換・公立幼稚園との交流も少しずつ出来はじめてきたものの、今年度から公立幼稚園が学区廃止になり私立幼稚園にも少なからず影響があります。小田原には子どもがいないということ終わらず、幼稚園の大切さ、又保育園にはない幼稚園に必要な人として育つために必要なものや心の育み、これらは生涯において取り返しができない今だけの育ちを大切に考え、共感しあい今だからできる事を協会としても考えていくことを協会と

ます。

本市の子ども達の教育をすすめ、またどう成長させていくかを日々研鑽しているところです。

積極性、社交性、責任感、これらとして大切な心得は、申し上げるまでもなく私達大人、なかなか児童教育に携わる者が不斷に実践し、子ども達へと繋いでいく、そして更に子ども達が互いに自他力を（自分でがんばる）の心をもつて他人をおもいやる）の心を育みつつ、社会人となつてくよう、その舵取り役を担つていています。

実践し、子ども達へと繋いでいく、そして更に子ども達が互いに自他力を（自分でがんばる）の心をもつて他人をおもいやる）の心を育みつつ、社会人となつてくよう、その舵取り役を担つていています。

実践し、子ども達へと繋いでいく、そして更に子ども達が互いに自他力を（自分でがんばる）の心をもつて他人をおもいやる）の心を育みつつ、社会人となつてくよう、その舵取り役を担つていています。

研修会報告

研究部主催

研修事業部主催

開催日	研修名	会場	講師	テーマ	参加者数
5/15(金)	統合保育基礎講座	かながわ ようちえん会館	Nippon Data社会福祉研究所副所長・ 教育福祉研究室室長 精神保健福祉士 上原 文 先生	「幼児教育を考える」	100人
5/20(水)	新規採用教員研修会	かながわ ようちえん会館	聖徳大学 教授 塩美佐枝 先生	「保育者の役割－新人に求められるもの－」	162人
5/21(木)	若手後継者のための 保育勉強会	ヨコハマジャスト	和泉短期大学 准教授 相馬 靖明 先生 峯岡幼稚園 園長 西山 俊太郎 先生 コーディネーター 玉川大学 教授 若月 芳浩 先生	「認定こども園移行に関する課題と 今後の方向性について」	35人
5/27(水)	小田原オープン講座	浅野記念 御豪端幼稚園	小田原短期大学 講師 野津直樹 先生	「環境」を再考するII ～過程としての記述から成果としての記述へ～	80人 (予定)
5/27(水)	鎌倉オープン講座	鶴岡八幡宮 直会殿	写真家・公益財団法人キープ協会 小西 貴士 先生	「子どもであるという自然」	200人 (予定)

法律相談事業のご案内



幼稚園経営管理の環境は時代社会を反映し、複雑多岐にわたり、法律的判断をしなければならない状況に迫られる案件に対し、迅速に専門の法律相談ができるよう、県連として法律相談を次のとおり実施しておりますので、お悩みの切にはご相談・ご利用ください。

1. 無償の相談業務

- ・幼稚園の経営、施設管理、労務管理等に関する口頭による法律相談
- ・幼稚園運営に関する諸規則、約款等を作成する上の指導・助言
- ・一般的な法律問題、法律文書に対する口頭での指導・助言
- ・一般的な法律情報の提供

2. 相談内容により有償となる業務

- ・幼稚園に発生した訴訟事件の受任
- ・交渉事件その他法律問題の処理・解決のために一定の手続きを要する事件又は継続した業務の遂行が求められる事件の受任
- ・幼稚園が必要とする契約書等の書面作成
- ・書面による回答、特殊かつその検討に相当程度の時間を要する事案についての回答、書面の作成を要する助言等
- ・幼稚園長及び教職員に対する法律講演

3. 県連 法律顧問契約事務所

R&G横浜法律事務所

横浜市中区住吉町1-2スカーフ会館3階
(代表)TEL045-671-9510/FAX.045-671-9523
県連担当窓口 西村 将樹 弁護士
(専用)TEL045-671-9654
メールアドレス:nishimura@rglo.gr.jp
※相談の際は専用番号におかけください。

4. 相談の際には、県連加盟と幼稚園名をお伝えください

教育相談事業のご案内

教育相談員
鈴木敦子先生
(臨床発達心理士)

事業要項

- 実施曜日
- ・「ようちえん会館」にて電話、面談による相談日
毎週火曜日 10:00~12:00
毎週水曜日 14:30~16:00
・出張相談・講演が可能な日 金曜日
- 形態
- 教育相談に係る講演および幼稚園への出張相談、及び電話相談、面談。

相談費用 無料

相談の申込 電話またはホームページから、神奈川県立幼稚園連合会事務局へ申込みください。

TEL. 045-440-3210

HP アドレス

http://www.shinshiyou.com/

Pride of

KANAGAWA



平成27年4月29日付けで発表された
国の行う春の叙勲で、(学)三橋学園 飯島幼稚園
三橋 勤園長が瑞宝双光章を受章されました。
心よりお祝い申し上げます。

(学)三橋学園
飯島幼稚園
三橋 勤先生
園長



瑞宝双光章

解説

国および地方公共団体の公務または公共的な義務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた方に贈られます。

ようこそ連合会へ 新規加盟園情報

特定非営利活動法人
藤沢市私立幼稚園協会

学校法人のぞみ学園 のぞみ幼稚園

〒251-0047 藤沢市辻堂6-18-36

TEL.0466-34-9511

FAX.0466-35-4283

設置者・代表者名／春山ミヲ子

園長名／春山ミヲ子

創立記念日／10月 1日

http://www.nozomi-kg.ed.jp



編集後記

箱根の大涌谷が火山性活動で騒がしくなっています。どうにかしたいとは思いますが、地球自身の活動なので人の手でどうこうできる問題ではありません。しかし火山性活動が収まつた後の行動は人の手が入ります。まずは人命が最優先されますが、観光地としてぜひ元気に再開してもらいたいと思っています。それには風評被害が起こらないように留意し、自らも箱根に観光に行く等をして、この日本を代表する景勝地を守って欲しいです。ちなみに私は2か月前に大涌谷で黒タマゴを食べましたが、本当に美味しかったです。各幼稚園さんでも楽な状況ばかりではないと思いますが、子どもの未来のために頑張りましょう。

広報室員 熊坂 昌志

From the Public Relations Section